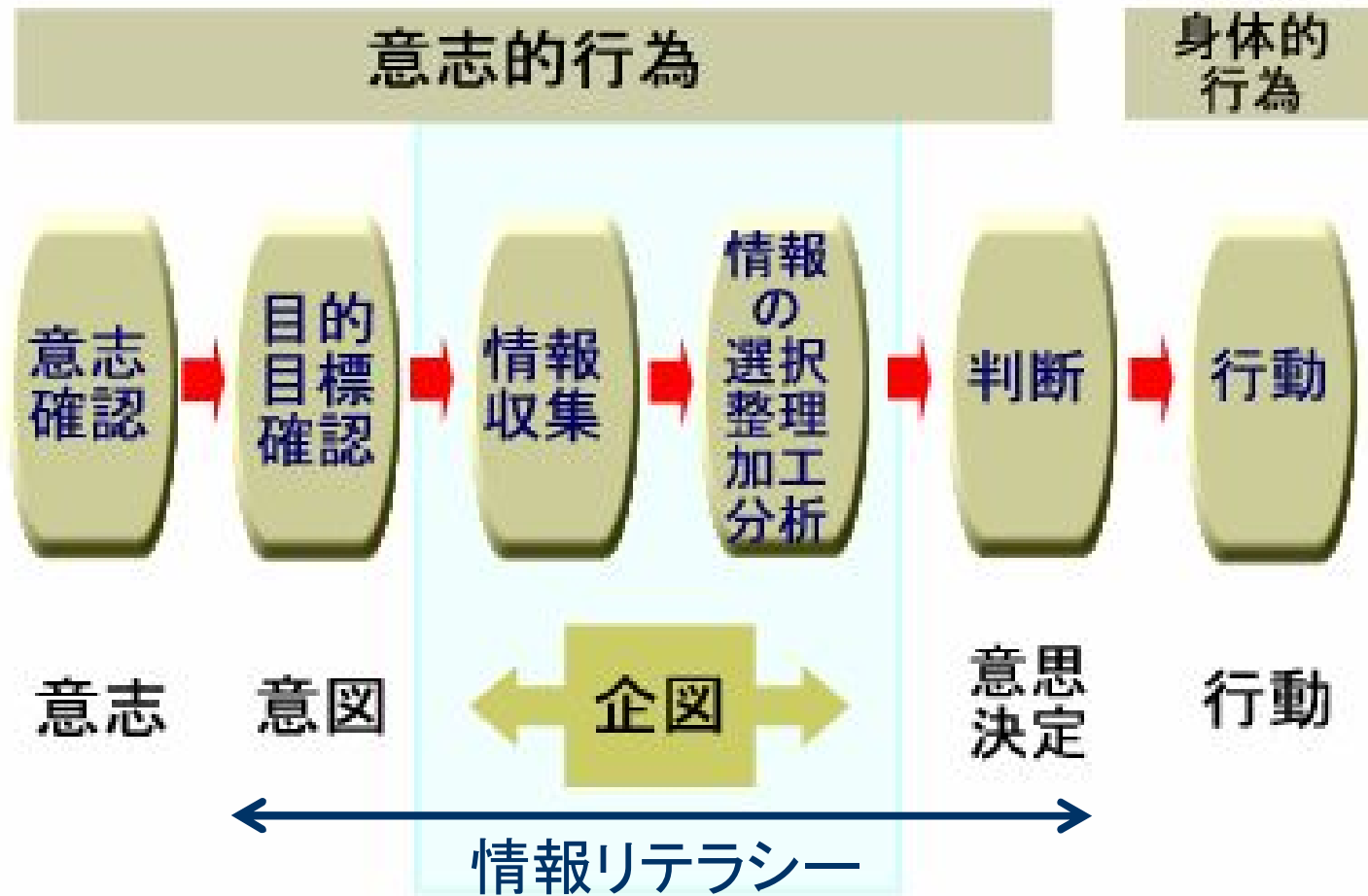


9/10/11回目

5. 情報の活用

- ◆ 5-1情報の利用段階
- ◆ 5-2情報リテラシー
- ◆ 5-3意志の確認段階
- ◆ 5-4目的、目標の確認段階
- ◆ 5-5情報収集段階(情報の量)
- ◆ 5-6情報の選択、整理、加工、分析の段階(情報の質)
- ◆ 5-7判断、意志決定の段階
- ◆ 5-8行動の段階

5-1 情報の利用段階



5-2 情報リテラシーの定義

- ◆ Costa, 1983
 - 「様々な出所の情報にアクセスし、情報を評価し、情報を活用する能力である。」「21世紀に向けた教育では、「読む、書く、計算する」といった指導と、「コミュニケーション、批判的な考え方、問題解決技術」の練習を連結した授業を行う必要がある。
- ◆ ALA会長委員会による最終報告, 1989
 - 情報リテラシーを身に付けた人は、情報が必要な時を認識できなければならない。そして必要な情報を効果的に探し出し、評価し、活用する能力を持たなければならない。

Doly, 1992

- ◆ 情報リテラシーを身に付けた人は次のような人である。
 - 正確で完全な情報は理性的な判断の基礎になることを認識している
 - 情報が必要なことを認識できる
 - 必要な情報について質問できる
 - 有力な情報源を特定できる
 - うまく情報を探す方法を考え出せる
 - コンピュータなどの技術を使って情報を入手できる
 - 情報を評価できる
 - 情報を使うため情報を整理することができる
 - 新しい情報を既存の知識に組み込むことのできる
 - 情報を批判的な考えかたや問題解決に利用できる

SCANSレポート

Secretary's Commission on Achieving Necessary Skill 労働長官委員会 1991

- ◆ アメリカの経済が資本財(産業)に基づいた経済からサービス(情報)に基づいた経済へ変化するに伴い労働者の質も経済構造に合わせて変化する必要がある
- ◆ 5つの機能
 - ①資源②チームの一員として活動できる個人の能力③情報を収集し、まとめ、管理し、評価し、説明し、伝達できること④システムを理解し、維持・管理できること⑤技術を使えること、応用できること
- 3つの基礎要因
 - ①読む、書く、計算する、聞く、話す基礎能力②考える能力、問題を解決する能力③個人の資質(責任感、自己尊重、社会性、自己管理、誠実・正直)
- ◆ Goals 2000, 1994においても(クリントン政権)情報リテラシーは、資本財に基づく経済社会から、サービス(情報)に基づく経済社会への変化に対応するために必要と考えられた

高等教育のために情報リテラシー能力基準

Information Literacy Competency Standards for Higher Education
Association of College & Research, 2000

情報を活用できる個人は以下のことができる。(5つの基準)

- ◆ 1 必要な情報の特性と範囲を確定することができる
 - 必要な情報を定義し表現できる
 - 利用できる情報源の種類を特定できる
- ◆ 2 必要な情報に効果的・効率的にアクセスすることができる
 - 情報収集のために最適な方法や検索システムを選択できる
 - 効果的な検索式を作成し検索を実行できる
- ◆ 3 情報と情報源を批判的に評価することができ、収集した情報を自己の知識や価値基準に組み込むことができる
 - 収集した情報からいくつかの要点を集約できる
 - 情報・情報源を評価するために最初の評価基準を作成できる
 - 集約したいくつかの要点から独自の考えを考え出すことができる

- ◆ 4情報リテラシーを身につけた学生は、個人として、あるいはグループのメンバーとして、特定の目的を達成するために情報を効果的に利用する。
 - 新しい情報とそれまでの知識を使って物や表現を創り出す。
 - 新しい物や表現を効果的に他人に伝える。
- ◆ 5情報をめぐる経済的、法的、社会的問題を理解し、倫理的、合法的に情報にアクセスすることができる
 - 情報と情報技術を取り巻く多くの倫理的、法的、社会経済的問題を理解する。
 - 情報資源のアクセスと利用に関係する法律、規則、方針、ネチケットに従う。
- ◆ 行動までは含まれない

【日本】日経四紙の新聞

- ◆ 情報リテラシーに加えられた注釈(1984-2002)
 - 全注釈 83件
- ◆ 利用能力 43件(52%)
- ◆ 読み書き能力(読み書きの能力) 13件(16%)
- ◆ コンピューターの利用能力
- ◆ 価値ある情報を判別する能力
- ◆ 活用能力
- ◆ 基本的な知識
- ◆ 情報を取り扱う能力

臨教審第2次答申, 文部省, 1998

- ◆ 情報リテラシーは情報活用能力と訳された
 - リテラシーを有する人から能力へ変化
- ◆ 初等中等教育における情報活用能力の3つの柱
 - 情報の実践力
 - 情報の科学的な理解
 - 情報社会に参画する態度
- ◆ 2003年度より教科「情報」開始
 - Word、Excel、Powerpointの技術教育が実態
- ◆ 大学教育
 - それぞれの学部で情報リテラシー教育を定義
 - コンピュータリテラシーを意味する場合が多い
- ◆ 行動まで含まれない

次世代を狙う人材と情報リテラシー向上策のあり方に関する提言,1998経済団体連合会

- ◆ 情報リテラシー
 - 情報機器を操作する能力(コンピュータリテラシー)
 - 情報ネットワークを活用して情報を収集・整理・加工・分析し、本質をつかんで発信できる能力(情報リテラシー＋情報発信)
 - 業務に精通し、業務に必要な情報を管理・更新・活用して新たな価値の創造を行う能
- ◆ 行動まで含まれる

問題(1回目)

- ◆ Q1情報リテラシーという概念は何時頃誕生したか
①1860年代②1870年代③1980年代④1990年代⑤2000年代
- ◆ Q2情報リテラシーの概念に含まれないものを選択しなさい
①情報は判断の基礎になることを認識できる②コンピュータなどの技術を使って情報を入手できる③情報を保管するため情報を整理することができる④新しい情報を既存の知識に組み込むことができる
⑤情報を批判的な考えかたや問題解決に利用できる

情報リテラシーに関する説明です。□に入る言葉を選択しなさい。

- ◆ Q3情報をめぐる経済的、法的、社会的問題を理解し、□ 的、合法的に情報にアクセスすることができる。
①倫理②効率③創造④合理⑤協調
- ◆ Q4情報と情報源を批判的に評価することができ、収集した情報を自己の知識や□ 基準に組み込むことができる。
①行動②管理③価値④判断⑤倫理
- ◆ Q情報リテラシーは、資本財に基づく経済社会から、□に基づく経済社会への変化に対応するために必要な資質と考えられる。
①人②サービス③物④金⑤労働

5-3 意志の段階

◆ 目的

- 自己実現したい内容、業務として了解した組織の意志を確認する
- 目的や目標を実現させるために自分の自発的、意識的な行動を起こす内的な意欲を確認する

◆ 情報リテラシー

- 含まれない



◆ 問題点

- 意志が明確でないまま行為に移る場合がある
- 自己の意志と組織やグループの意志が相反することがある

◆ 対応

- 自己の意志に基づいているか確認する
- 組織の意志が規範を逸脱していないか確認する

5-4 目的、目標の段階

- ◆ 目的の確認
 - 目的:何をするために情報収集をするか、収集した情報を使って何を判断・決定するのかを確認する
- ◆ 目標の確認:
 - 情報収集の到達目標、情報の利用方法など、目的を具体化する
 - 意思決定の判断基準になる
- ◆ 情報リテラシ
 - 目的・目標は判断基準になることを認識できる

問題点と対応

◆ 問題点

- 目的を明確にしないまま情報収集を実行すると情報収集する対象(範囲)が広がる。収集する情報量が増える割には本当に必要な情報が収集できない状況に陥る

◆ 対応

- 自分の自発的な意志や、業務としての目的・目標を再確認する
- 情報収集の目的・目標を実現するため収集した情報の具体的な利用方法を情報収集の前に想定する
- 情報検索の前にできる限り検索課題を明確にすることが良い情報検索結果につながる

5-5情報収集の段階(情報量対応)

- ◆ 目的
 - 情報の洪水の中から関連情報を多く集める
- ◆ 情報リテラシー: この段階と最も関係が深い
 - 情報を探す方法を考え出せる
 - 有力な情報源を特定できる
 - 情報を収集する目的や目標を確認できる
 - ネットワークを使って情報にアクセスできる
 - データベースを使って情報検索ができる
 - 情報の原文を入手できる

情報収集の段階 問題点

◆ 問題点1 情報が多すぎる

- 情報量が非常に多くなると、対象の情報全てに目を通すことができない(時間が足りない)
- 処理できないほどの情報量は、実質的には全く情報がないのと同ーの状態
- 集めただけで満足する場合が多い(手元に在るだけでは情報にならない)
- 必要な情報の占める率が低下する
- 場所をとる
- 情報検索の回答が膨大な量になる

情報収集の段階 問題点

- ◆ 問題点2 全ての情報を集められない
 - 情報が無いことを証明することは不可能(非常に困難)
 - 100%の情報収集は不可能
- ◆ 問題点3 原文を入手しない
 - 情報源を確認できない・しない
 - 検索が簡単になりすぎたため、原文を意識できない
- ◆ 問題点4 探し方が解らない
 - 探す分野、種類が解らない
 - 必要な情報を見逃す

情報収集の段階 対応

- ◆ 処理できる量を把握する
- ◆ 3～5割の情報で概要は判断できる、9割は困難
 - 例)3年程度の情報を集めればほとんど理解できる
 - 例)100件 and 3年
 - 件数を減らすためにキーワードを増やさない
- ◆ 必要な時に探す
 - 探す方法のみを明確に身に付ける
 - 的確な指示をもらえる人を確保する
- ◆ 幅広い情報から関連情報を選択する
 - 質(信頼性)の高い情報のみを得ることは不可能なのでなるべく多量の情報から選択する

情報収集の段階 対応

- ◆ 情報源の書誌事項を確認する
 - 学会誌の書誌
 - URLのドメインの理解 gov go.jp
- ◆ 無い情報は無いと考えて情報収集をする
- ◆ 良く使用する(使用頻度の高い)情報のみを手元に置く
- ◆ 技術的な対応
 - 情報技術の習得に時間を要するが技術にすぎない
 - 収集する情報の内容を中心に考える

問題(2回目)

- ◆ Q1情報の活用に関して意志の段階で注意すべき内容に該当しないものを選択しなさい
 - ①意志が明確でないまま行為に移る場合がある②自己の意志と組織の意志が相反することがある③組織の意志が規範を逸脱している場合がある④意志は目的を決める内的意欲である⑤意志はしたいと思う心そのもので知識や情報と直接関係しない
- ◆ Q2目的、目標の段階における情報の活用に関する説明で間違っているものを選択しなさい。
 - ①何をするために情報収集をするかを考えると目的が明確になる②目的は判断・決定する際に役立つ③目標は目的を具体化したものである④目的を明確にしなければ広範囲な情報収集が可能で有効ある⑤目的を明確にしないまま情報収集すると情報量が増える割には本当に必要な情報が収集できない状況に陥る
- ◆ Q3情報量が多すぎることの問題点に該当しないものを選択しなさい
 - ①情報量が非常に多くなると、対象の情報全てに目を通すことができない②処理できないほどの情報量は、実質的には全く情報がないのと同ーの状態になる③情報の漏れがなくなり誰もが同じ情報を利用する④集めただけで満足する⑤必要な情報の占める率が低下する

- ◆ Q4情報収集に関する説明として不適切なものを選択しなさい。
 - ①関連する全ての情報を集めることは不可能である②情報が無いことを証明することは非常に困難である③情報を100%収集することは重要である④情報収集の基本は原文を入手することである⑤情報を入力したら必ず情報源を確認することが基本的な対応である
- ◆ Q5情報収集段階の対応として間違っているものを選択しなさい。
 - ①処理できる量を把握する②なるべく多くの関連情報を収集するよう努力する③3年程度の情報を収集して概要を理解する④必要な時に探す方法を身に付けておく④情報収集についての的確な指示をもらえる人を確保する⑤情報源の書誌事項を確認する

5-6 情報の選択、整理、加工、分析の段階(情報の質対応)

- ◆ 目的
 - 本当に必要な情報を選択する
 - 選択した情報を判断に役立つよう整理・加工する。
 - 判断に役立つよう目的・目標にあわせて整理・加工・分析する
- ◆ 情報リテラシー
 - 批判的かつ適切に情報を評価することができる
 - 創造的な情報を識別することができる
 - 情報源を認識し評価できる
 - 情報を使うため情報を整理・加工することができる
 - 他人や、専門家、経験者との対話を通して情報の理解や解釈が正しいか確認できる

問題点

- ◆ 情報発信者の意志と情報収集者の意志が異なる
- ◆ 判断能力の不足
 - 対象範囲が広くなると個人で判断できる能力を超える
 - 知っている分野については評価可能だが、知らない分野については評価できない。
 - 評価能力が無い場合は、専門家に判断を求めることもある
 - 殆どは自分で判断しなければならない
 - 専門用語の理解が困難
 - 判断できない情報を評価する必要がある
 - 会社経営や国際政治の場面では日常的
 - 例) 経営判断(不完全情報化のゲーム)
 - 例) 為替、投資
 - 質の良い情報と悪い情報が混じっている
 - 不要な情報、誤った情報を除くことが困難

対応

情報の選択、整理、加工、分析

① 批判的に考える

- ◇ 自己の知識構造や価値基準で評価する
 - ◇ 批判だけでも良くない。批判した上で役立つ情報は自己の知識に組み入れることが必要
- ◇ どのような情報にも偏りがある、中立ということはない
- ◇ 情報に発信者の意図が入っている
 - ◇ マスメディアの場合も中立ということはない
- ◇ 反対意見も参考にする
 - ◇ 情報発信者の意志を考慮すると理解が深まる
- ◇ 練習：本日の新聞記事（Web版）

②複数の出所の違った情報を選択する

- ◇ 情報収集手段を複数持つ
 - ◇ 偏った判断をさける
 - ◇ 裏を取る：供述・情報などの真偽を確認する、裏付けをとる
- ◇ 情報の発信は目的別に行われているので、ある目的に重要で公表されなくても、他の重要でない別の目的では公表されることがある
- ◇ 例) たばこの内容成分と米国FDA(規制)

③質の高い情報を選択する

- ◇ おびただしい情報の中から、目的毎に質の高い情報を捜す工夫が必要(目的により質は異なる)
 - ◇ 正確な情報と迅速な情報
 - ◇ 体系的な情報とデータ
 - ◇ 解りやすい情報と専門的な情報
 - ◇ 客観的な情報と主観的な情報
- ◇ 信頼性のある情報
- ◇ 情報の発信に複数の人がかかっている情報は信頼性が高い
- ◇ 結果がわかってから、情報の価値や信頼性の判断をつけることはだれにでもできるが、事前の判断は困難

④ 評価できない情報は付帯情報から情報の質を考慮し情報を選択する

- ◇ 出典をしらべる(書誌事項)
- ◇ URLのドメイン go.jp ac.jp gov.uk gov edu → 信頼性高い
co.jp com ne.jp Wikipedia → 判断できるものは利用
- ◇ 出典の不明な情報は排除する

⑤ 評価を専門家に依頼する

- ◇ 情報の評価のみ依頼する
- ◇ _____ は自分で行う
- ◇ 情報リテラシ基準
 - ◇ 他人や、専門家、経験者との対話を通して情報の理解や解釈が正しいか確認できる
- ◇ 友人は専門家でない

- ◆ ⑥key-manの情報を選択する
 - 定性情報の場合は発言した人により情報の質が決まることが多い
- ◆ ⑦SDI情報の利用
 - 選択的情報流通
 - Selective Dissemination種まき、散布 Information
- ◆ ⑧知識を増やす
 - 情報の発信者の意図、意志に惑わされない

5-7 判断、意思決定の段階

◆ 目的

- 特定の目的について判断するために情報を使用する
- 【情報の価値は期待価値】

◆ 情報リテラシー

- 選び出した情報を個人の知識基盤・構造のなかに組み入れることができる
- 目的や目標に対する判断材料として情報を使うことができる
- 情報を価値の創造に活用できる

◆ 問題点

- 1) 多くの判断が存在する
- 2) 複数の矛盾した情報を使用して判断する必要がある
- 3) 少ない情報で判断しなければならない場合がある
- 4) 目的・目標が途中で不明確になることがある
- 5) 無謀な決断と危険を冒さない決断がある
 - ハイリスク-ハイリターン / ローリスク-ローリターン
- 6) 個人の判断、企業の判断、組織・社会の判断が相反する場合がある
- 7) 早さを優先させる判断と正確さを優先させる判断がある
- 8) 数の多い情報、多数の意見、知人の意見に惑わされる
- 9) 議論して決めると間違いはないが、創造性がなくなる

対応

- ◆ 自己の価値観をもつ
 - 個人の判断、企業の判断、社会の価値観を近づける
 - 知識を増やす
- ◆ 社会の価値観と組織の価値観を同じにする。
 - コンプライアンス、Compliance、服従、従順、承諾、納得
 - 社会秩序を乱す行動や、社会から非難される行動(企業の不祥事)をしないこと
 - 法律を犯さない(従来)→規則を守る→論理、社会規範に即した行動
 - 規範:判断、評価または行為などの拠るべき基準
- ◆ 意志・目的・目標を再確認する

- ◆ 情報をもとに自分で判断する習慣を身に付ける
 - 客観的に、冷静に判断する
 - 友人や知人の意見に惑わされず自分で決める
 - 出典の違う情報を比較し判断する
- ◆ リスク管理を行なう
 - どこまで失敗が許されるかを予め決めておく。
失敗したときの対応を予め決めておく
- ◆ 意思決定という行為に対し、情報は単なる材料にすぎないことを認識する
- ◆ 情報の価値は実現価値であるが、期待価値で判断していることを認識する

5-8 行動の段階

- ◆ 目的
 - 目的達成のため判断に従いに他人に対し行動を起こす
- ◆ 情報リテラシー(社会性の分野のみ/実際に行動する前まで)
 - 民主主義社会における情報の重要性を認識することができる
 - 情報をめぐる経済的、法的、社会的問題を理解し、倫理的、合法的に情報にアクセスすることができる
 - グループで情報を搜したり創り出したりすることに関与することができる
- ◆ 問題点
 - 行動には責任が伴う
 - 自分で行動するため、責任も自分でとることになる
 - 身体的行為
 - 対応
 - 責任を取れない行動はしない。
 - 自己の目的を認識して行動する

問題(3回目)

- ◆ Q1情報の整理、加工、分析段階における問題点に該当しないものを選択しなさい
 - ①対象範囲が広がると個人で評価できる能力を超える②知らない分野については内容を評価できない③評価能力が無い場合は専門家に判断を求める④重要な情報は自分で理解して評価しなければならない⑤判断できない情報を評価しなければならない場合がある
- ◆ Q2批判的に考えることが重要であることの説明でないものを選択しなさい。
 - ①自己の知識構造や価値基準で評価することになる②批判した上で役立つ情報を使用することにより無条件で情報を受け入れることを避けることができる③批判的に考えることで情報発信者の意志を考慮することができる④反対意見も自己の知識に取り込むことにより知識を深めることができる⑤自己の考えと反する情報を排除できる

- ◆ Q3情報の選択、整理、加工、分析の段階における対応で適当でないものを選択しなさい。
 - ①批判的に考える②複数の出所の違った情報を選択する③専門家にすべてまかせる④評価できない情報は付帯情報から情報の質を考慮し情報を選択する⑤key-manの情報を選択する
- ◆ Q4判断、意思決定の段階の内容で間違っているものを選択しなさい
 - ①多くの判断が存在する②複数の矛盾した情報を使用して判断する必要がある③情報が不足する場合は判断をしないようにする④目的・目標が途中で不明確になることがある⑤無謀な決断と危険を冒さない決断がある
- ◆ Q5判断の段階における対応で不適當なものを選択しなさい
 - ①情報は判断の単なる材料にすぎないことから自己の価値観に合わない情報は排除しても良い②判断を行うためには自己の価値観を確認する必要がある③社会の価値観と組織の価値観を同じにするために努力することが求められる④判断のまえに意志・目的・目標を再確認する必要がある⑤情報をもとに自分で判断する習慣を身に付けることが重要である。

5-0 情報の活用まとめ

- ◆ 情報の活用
 - 情報で新しい価値を創造する
 - 休校の連絡: 利便性の向上
- ◆ マクロ的把握
- ◆ 情報に含まれる意志の確認
- ◆ 自分の判断に使用する

例題

- ◆ 複数の新聞記事
- ◆ Webのページ
- ◆ 書誌事項
- ◆ information literacy competency standards
 - <http://www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/informationliteracycompetency.htm>
 - <http://www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/InfoLiteracy-Japanese.pdf>

- ◆ 内閣府がまとめた「個人情報保護に関する世論調査」
- ◆ http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/pdf/051020_4_san10.pdf